

5 研究の成果と課題 (◎：成果 △：課題及び今後の方向性)

(1) 『本当に伝えたいこと』を表現し合う言語活動の設定

◎児童が「本当に伝えたい」と思えるような既習の言語材料を使ったアクティビティ(言語活動)の設定ができた。その結果、既習事項を生かして会話しようとする児童が増え、友達同士での教え合う姿が見られた。

◎高学年児童のアンケート結果で、「英語で自分のことや意見を言うこと」に対して肯定的な回答をした児童の割合が、5月と12月を比べて約10ポイント増加した。

△児童の学習への動機付けとなる「単元のゴール」は、児童がイメージしやすく意欲的に取り組めるように設定する必要があるため、毎単元構想するのに時間を要した。今後、計画的に年間指導計画に位置付ける必要があると感じた。

(2) 必然性のある単元計画の設定

◎「単元のゴール」に向けて、学年の実態に合わせた必然性のあるアクティビティを行ったことにより、意欲的に英語の学習に取り組む児童が増えた。

△英語を学習することに抵抗感がある児童や言語能力に課題がある児童に十分に自信を付けさせることが不十分であった。そのため、指導方法の工夫と支援の方法を更に考えていく必要がある。

(3) 英語活用場の設定

◎「English day」を設定することにより、児童が英語を身近に感じる事ができた。

△取組に対してクラスごとのばらつきが見られた。研究の手だてに沿って、全クラスで同じように取組を推進していくためには、テーマを決めて取り組むなど工夫が必要だった。

(4) 英語教育の環境整備

◎日常的に英語に触れることができる環境を整えたことにより、英語に親しむ児童が増えた。

◎「トーキングタイム」を定期的に行うことにより、教員が英語に親しみ、楽しく話することができるようになった。英語の授業に対しての前向きな気持ちにつながるとともに、HRTの英語力が向上し、積極的に英語を用いて授業を進められるようになった。

△掲示物について、児童の学習意欲をより高められるよう内容を工夫していく必要がある。

ご指導いただいた講師の先生

聖学院大学人文学部欧米文化学科教授 東 仁美 先生

研究に携わった教職員

(◎研究推進委員長 □研究推進副委員長 ○研究推進委員)

校長 宮原 典子 副校長 石田 龍雲

◎1年1組	木村 祐輔	音楽	古田 美穂	養 護	小金澤 里織
1年2組	志間 菜月	図 工	伊藤 晃二	○栄養教諭	日下 幸
2年1組	川嶋 宏明	□算数習熟	花岡 里美	事 務	川又 友美
○2年2組	山口 めぐみ	算数習熟	山内 翔太	A D	大洞 真由子
2年3組	渡部 璃里香	四峡教室	村橋 倫美	N E A	Aliw Murakami
	横内 洋子	四峡教室	澤田 友美子		
○3年1組	川畑 裕子	○四峡教室	中里 麻子	(令和4年度)	
3年2組	鈴木 陽奈	○四峡教室	小林 知樹	副校長	浪江 泰弘
4年1組	山上 沙耶	四峡教室	加藤 恭子		田村 悦子
○4年2組	斉藤 雄貴				萩岩 孝介
5年1組	早川 大介				新井 陽子
○5年2組	森 航平				阿部 政子
○6年1組	堀井 颯人				溝井 裕一
6年2組	猪狩 文子				